

松本市寿小学校
松本市明善小学校

地域の里山を知る・楽しむ・守る

《地域調べ型学習》

2019 年度
中信地区環境教育ネットワーク
(ee ネット) 登録団体
学習実践例

授業名：里山体験学習

寿小学校

学校名：松本市立寿小学校

学年・人数：5年1-4組 138人

日時：事前学習

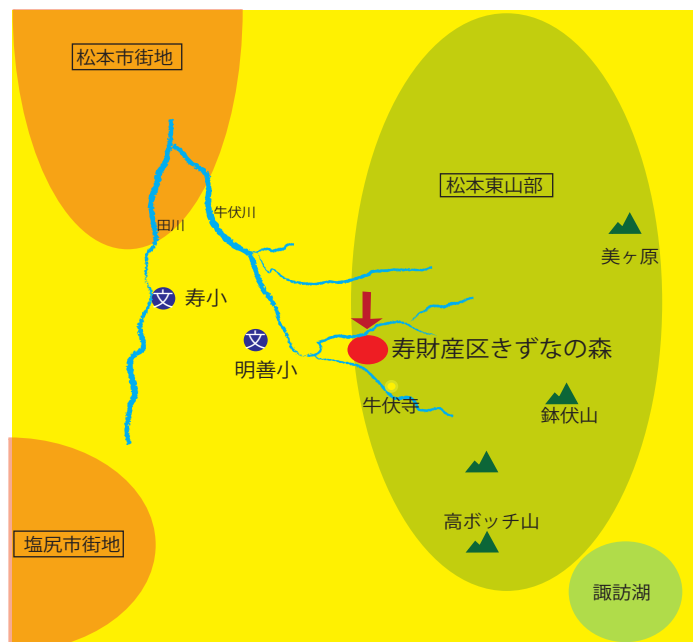
9月5日 11:35～12:20

きずなの森での活動

9月12日 8:20～15:20

講師：寿さと山くらぶ

寿財産区



事前学習

こどもと先生のねがい

何のために里山体験を行うのか。学有林としてのあゆみやどんな管理をし、使われ方をしてきたかを知りたい。

こんな学習を・・・

戦後は子ども達が学校の薪炭を集め、はだかになった学有林に苗を植えた。里山の歴史や役割について、昨年の活動資料を使って話をする。

当日の様子

- 【実施概要】
- ・里山の歴史、里山の動植物についての講義
 - ・当日の体験内容、注意事項についての説明

【実施状況】

寿地区で大切に管理されてきた里山の歴史や自然について、里山クラブの方や議長さんから説明を受けた。里山がかつての寿小学校の学有林であったこと、70年前の小学生が苗木を植えて、今の豊かな山になったことなど、初めて知る事実には驚いた児童が多かった。

寿公民館長より、過去の里山体験学習について、画像をもとに説明を受けた。トレッキングできるこや動物が見つかるかも、と聞くと、期待で表情が明るくなる児童が多かった。



また、森の役割、森のはたらきについてのお話をお聞きした。森が動物の住処になっているだけではなく、我々の生活になくてはならない水をため込んだり、きれいにしたりしてくれること、山の土砂が流れ出すことを防いでくれること、森の木が、自分たちが使っている家具になったり、ストーブの燃料になったりしていることなど、森が自分たちの生活にどれだけ関わっているのかを知ることができた。

森での活動

こどもと先生のねがい

- ・きずなの森はかつての寿小学校学有林であったことを知った子ども達が、自分たちの地区の財産を大切にしていける気持ちを持ち、自然に対する関心を高めたりする機会にする。
- ・林業について学習していく子どもたちが、林業ではどのような仕事をしている人がいて、どのように自分たちの生活と関わっているのかを実際の体験を通してより深く考えていく機会にする。

こんな学習を・・・

1G目（1組・2組） 8:20～14:30 / 2G目（3組・4組） 9:20～15:20

里山トレッキング～木の伐採見学～木の名札づくり～きずなの森清掃

気をつけること

- ・里山トレッキング
- ・木の伐採見学、木材を使った名札づくり

当日の様子

- 【実施概要】・里山の歴史、里山の動植物についての講義
・当日の体験内容、注意事項についての説明

【実施状況】

○伐採見学○

里山クラブの方に準備していただき、木の伐採作業を見学した。チェーンソーの扱いや特別な装備、木を倒す方向を調節するワイヤーなど、安全に特に配慮して作業していることが伝わってきた。



木が倒れる際の、幹が割れる音、上方の枝が折れる大きな音、そして切れた後の木の香りなど、児童は教科書では分からない情報を五感を通して感じ取っていた。

○木の名札づくり○

里山から切り出した木の枝を、輪切りにしたものを用いて、自分だけの名札づくりを行った。輪切りにした木の表面はとても滑らかで、児童は手触りを確かめたり、においをかいだりして木の感触を楽しんでいた。木の輪切りやクリップは里山クラブの方々を用意してくださり、子ども達は木の形に合わせて自分の名前や飾りを書き、裏にクリップをつけ名札を作成した。名札は学校の授業で活用している。



子ども達の感想

- 木の伐採では、三つの切込みのようなものを入れて、その切込みはたおしたい方向に入れることを知り、そんな工夫があるんだ、と思いました。ロープのようなものを使って、安全にできたので良かったです。
- 名札づくりで地域の方が教えてくれたりしながら名札づくりができて楽しかったです。
- 里山クラブの人たちの名札はつつつして、ピカピカでとてもきれいな字でした。私も一生懸命作れたのでうれしかったです。

授業名：6 学年 秋の里山学習 明善小学校

学校名：松本市立明善小学校
学年・人数：6学年 79 人
日時：9 月 30 日 8:20～15:40
講師：寿さと山くらぶ
主な活動場所：寿きずなの森

こどもと先生のねがい

- ・秋の山道を歩き、森の中で自由遊びや活動をする中で身近な自然に触れ、親しむ。
- ・山の中で活動を深め、進んで里山に関わる姿勢をもつ。

こんな学習を・・・

9:10 山の神に集合（学校からはタクシー）→きずなの森まで歩く（10:00 着）→きずなの森の森林整備、堰堤見学→きのこ汁作り→昼食
食事後散策、川の生物探し。帰りは現地から学校まで歩き。

気を付けること

ハチ。山道は1列で歩く。下りは走らない。ヘルメットをかぶる。山の神集合時に注意事項について話す。

当日の様子

【実施概要】 森の整備・ごみ拾い活動
きずなの森周辺の散策（木の実とり、きのことり）など

【実施状況】



子どもたちが、折れた枝や倒木の残骸などを拾い集めた。森の整備活動にどの子も「森のため」という気持ちで意欲的に取り組んでいた

県の実務課の方から森林の大切さや今の松本の山の現状などを聞き、人の手で守っていかないといけないというお話をいただいた。





散策の際に勉強したきのこをもとに、お弁当の時間にきのこ汁を作って食べた。きのこ嫌いの子どもも少しは食べてみようがんばる姿もあった。



昼食後、森の散策と川の散策に分かれて学習した。森の散策では、珍しいきのこを見つけたり、植物について詳しく学習したりした。

川の参観では、川にいる見慣れない生き物を見つけて里山クラブの方に質問して、学習するなど楽しく学習できた。



子ども達の感想

普段経験できない活動でとても楽しく学習できた。森のことについてあまり考えたことは無かったけど、今回の里山学習で森について考えようと思った。

授業名：秋の里山学習（きのことり） 「かがやき」明善小学校

学校名：松本市立明善小学校
学年・人数：特別支援学級 1年～6年 30名
日時：10月28日 8:20～15:00
講師：寿さと山くらぶ
主な活動場所：寿きずなの森

こどもと先生のねがい

- ・森林を整備する大切さと整備の仕方
- ・食べられるキノコの見分け方

こんな学習を・・・

- ・森林の整備（ごみ拾い、枝の片付け）
- ・周辺散策（山の神）
- ・キノコ汁作り

気を付けること

ハチ。斜面を歩くときに注意。トゲのある木、ウルシなど。

当日の様子

【実施概要】 ごみ拾い活動・山の神周辺の散策（木の実拾い・きのことり）など

【実施状況】

鈴木さんから、お話を聞き、山にあってはならない「ゴミ」をみんなで拾う。小さなプラスチックのようなゴミも拾うことができた。



里山クラブや地域の方が作って下さった手作りブランコにのる。公園にあるのとは違い、動きも不規則で漕ぐのが難しかったが子どもたちは隣の子と当たらないように工夫していた。山のにおいやさわやかな風をたくさん感じる事ができた。



のこぎりを使って白樺の木を切る体験もできた。上手に切るにはいくつかのこつがあることを感じることができた。

みんなで、山道を中心にきのこを探しに出発。きのこ以外にも、鹿が角を磨いだ木についた傷やいろいろな物をたくさん発見。里山クラブの方に聞いたり、質問したりして、楽しく学習できた。



生まれて初めてきのこを見つけ、自分の手で取り、喜ぶ子どもたち。



子ども達の反応

普段経験できない初めての体験が多く、とても楽しく有意義な学習できた。子どもたちは、大自然の中に行くと心も開放され、生き生きと活動させてくれる森や山の自然の力の偉大さを知った。また、地域の方が自然を守るいろいろな努力をされていることが分かった。

きずなの森体験 振り返り

☺ 先生方の振り返り

寿小学校5年

里山クラブ、寿公民館、寿財産区をはじめとする、地域の方々のお陰で、子ども達が自然と触れ合うとともに、自分たちの地域をより深く知り大切にしていこうとする気持ちを育む素晴らしい機会を与えていただきました。寿の方々が大切に管理されてきた里山で、キノコを見つけたり、動物の足跡を探したり、山を駆け巡って鬼ごっこをしたりする児童の姿を見て、この子ども達は本当に地域の方々に大切にされているのだと深く感じました。このような貴重な体験の機会をいただいたことに、関係者の皆様に大変感謝しております。

明善小学校6年

子どもたちにとって、身近そうで実はよくわかっていない山について学習することができた。社会科の授業で学習した人工林や天然林について実際に見てみることを通して、山にどのように植えてあるのかやただ植えてあるだけでなく、手入れをしていかないとしっかりと生長しないということを教わることもできた。森の整備にも話を聞いたことでがんばって取り組むことができた。木以外の植物にも里山クラブの方がいろいろ教わり、自分たちできのこを見つけては食べられるか食べられないかを尋ねて楽しみながら植物について学習できた。山についてよく考えるよい機会になった。

明善小学校 特別支援

子どもたちにとって、山・自然・きのこ採りという初めての体験を思う存分楽しむことができたことは、とても貴重な体験だった。きのこ採りでは、何度もきのこを見つけ、鈴木さんや里山クラブの人に見てもらう中で、なんとなく子どもたちは食べられそうなきのこそうでない物を区別できるようになった。木の登り方、のこぎりの切り方、ブランコ、ハンモックなどこれまで普段できない体験から、子どもたちは工夫することの大切さを自ら見つけられる子もいた。

☺ 講師の振り返り

明善小では平成13年頃から、寿小では平成15年頃からきずなの森の学習を継続している。初めは1クラスからだったが、今は寿小は5年生が、明善小は6年生が、学年の年中行事の一つとして里山学習を組み入れてくれている。

地元の子どもたちが一度は山に行って活動したという記憶をもって大人になってくれるというのはとてもうれしいこと。子どもたちが山で楽しそうにしているのを見るとこちらも元気をもらえる。

県や市の林務課の方にもサポートしていただいている。特に寿小は人数が多いので、地元の公民館などコミュニティースクールの活動も使って40人近い人たちがサポートに入ってくれている。

地域が一丸となって支援を行う中で、地元の子どもたちに地域の山のことを知ってもらえるというのは、とても価値のあることだと思っています。

☺ コーディネータから

事前学習では、実際に山に登り、体験学習をする前に注意すべき点、危険と思われる事項について確認ができてよかった。

学校と同じ寿地区の財産区有林ではあるが、なかなか山の中に入る機会はなく、子どもたちにはいい経験になったのではないかな。山の中では様々気をつける点があり、それは日常の生活でも役に立つことが多いため、それも勉強になったと思われます。(青)